

つながりの中でくらす
望まれた人として生きる
自分らしく生きていく



No. 35

2013年1月発行

今年が素敵な年となりますように！

昨年もたくさんの方々に支えていただきました。

心より感謝いたします。ありがとうございました。

本年もどうぞよろしく願い申し上げます。

2013年、「ほうふ」は新しい一歩を踏み出します（宣言です）!! 昨年12月に法人の定款変更を申請し、障害者自立支援法や児童福祉法の事業内容を加えました。「出会い・つながり・夢を語ろう」を合言葉に、地域の中にさまざまなつながりをつくり、一人ひとりが大切にされる地域社会を目指して活動に取り組んできました。制度にとらわれないところで、地域に密着しながら、地域の方々と協働して、さまざまな課題に向き合ってきました。それらの活動に加え、福祉サービス事業を開始します。

しかしながら、「ほうふ」はサービス事業者になりたいわけではありません。毎年、さまざまな助成金を申請して事業を運営してきましたが、不安定な資金のもとで事業を展開していくことの難しさや、社員が手弁当で継続的に活動を行うことの困難さが課題でした。

これらの課題を解決し、「場」と「人」を確保していくなかで、近年模索してきた「障害児の自立に向けた支援事業」（将来にわたり地域で自分らしく暮らし続けるための活動）を実践していきたいと思えます。また、行政の事業削減によって、地域住民の居場所が失われようとしています。つながりが切れそうになっています。「ほうふ」が理念としてきた「つながり」をつくる場所が必要だと強く感じ、「ほうふ」にしかできない事業を創り出していきたいと社員一同希望に胸を膨らませています。

とはいえ、新規事業の準備は、まだ白紙の状態です。今春から活動場所やスタッフを新たに探し始めます。「つながり」をつくる場所に適した建物の情報提供や、新規事業にかかわってくださる方の立候補や推薦など、「ほうふ」の新しい一歩に力をお貸しください。みなさまの温かいご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

未来に向かってチャレンジ！ ～障害児の自立に向けて～

【大阪ガスグループ“小さな灯”運動「子ども支援市民活動助成プログラム」助成】

保護者研修会

～障害をもつ子どもの将来のすまいを考えよう～

日 時：2012年12月24日（月・祝）13：30～15：30

会 場：大阪市立城北市民学習センター 会議室3

参加者：障害児の保護者8名、ほうばスタッフ3名



昨年度、グループホームや自立生活をされている障害者の自宅を訪問して、子どもたちや保護者が「自分の家」ではない『すまい』を見学する機会をもちました。見学後の研修会では、障害者や支援者の方々から、自立までの過程や現在の生活の様子など

をお伺いしました。その後、保護者から「子どもが親から離れて暮らしていく時に利用する制度や必要な準備等について、具体的な話が聞きたい」という意見がみられました。

そこで、中部障害者解放センターのスタッフの方々を講師に招いて研修会を開催するに至りました。講師の方々には参加者からの質問を事前に伝えていたので、参加者の知りたいことを盛り込みながら研修を進められ、多くの資料も準備していただきました。講師3人の絶妙な(?)やり取りが、とても居心地の良い空間をつくり、あつという間の2時間でした。石田さん、小坪さん、吉田さん、本当にありがとうございました。

最初に、石田さんが「施設」と「在宅」の違いという、障害者の暮らしを考えるための「根っこ」の部分について話をされました。施設の中で生活のすべてが完結してしまうのではなく、地域の中でいろいろな所に出かけ、いろいろな人やモノとつながりながら暮らしていくことの大切さを改めて感じました。小坪さんからはグループホームの生活の実際について、教えていただきました。障害当事者であり支援者である小坪さんの話は、説得力をもって伝わってきました。吉田さんは事前に伝えていた質問事項に対して、わかりやすく答えてくださいました。最後に、参加者が自己紹介とともに質問や感想を述べました。

参加者の子どものほとんどは、自分の思いを言葉で伝えることができません。「子どもがひとり暮らしやグループホームで暮らしたいと思っているのだろうか?」と悩む保護者もいます。しかし、「自宅や施設で生活しているだけでは、そのような気持ちは育たない」という講師の言葉にみられたように、思いを言葉で伝えることのできる子どもにとっても、親から離れた暮らしを思い描くために、多様な『すまい』を実際に見たり体験したりすることの大切さを改めて思いました。

「親から離れて生活をしていく時、気持ちをうまく表現できない子どもの思いをくみ取りたり、行動を促していくスタッフが必要」という保護者の意見に対して、「スタッフの力量は必要だが、お互いに力をつけていくことが大切」と講師は述べられました。最初からスタッフの質の高さを求めるのではなく、子どもとスタッフ、そして、保護者も子離れしていくために、一緒に学びあいながら力をつけていく過程が重要だと思いました。

<参加者の感想>

研修会も回を重ねるごとに、勉強させてもらえたことにありがたさを感じます。どの講師も、当事者の気持ちに寄り添う姿勢があり、「自分だったら…」と想像しながら考えて向き合ってもらえることにステキな環境だなあ、と思いました。子離れは寂しいなあという感情も断ち切れず(笑)。これからもいろいろなところに出向き、たくさんの人と出会い、経験値を積んでいくことを大切にしながら過ごして自立生活へとつなげていけるような…、そういうことが必要だなと感じました。

グループホームって、やる気と根気と元気で、やろうと思えば出来るかも?と、ちょっと思ってしまった(笑)。息子は一人暮らしを目指しています。でも、仲間が必要とも思っています。変化の激しい社会だからこそ、障害をもつ子ども達がホックリ安心できる場所、かつ、親元を離れるコトは必要ですね。いつか、私も何かで役に立てればいいなと思います。

講師の方々のお話を聞いて、一言ひとことに人柄が感じられ、やっぱり一番大切なのは人とのつながりだなあとしみじみ感じました。「グループホーム、ケアホーム、一人暮らし等をするにあたって、今一番しておくことは?」という質問に、「失敗を含めたいろんな経験を積み重ねる」という回答は、ストーンと心におさまりました。「ああ、そうなんだ。それで良かったんだ。」という嬉しさがありました。ある所で、「身辺自立」ばかりを言われて、「身辺自立できない人には夢も希望も持てないのか?」と悲嘆、落胆させられていました。そんな中で光が差し込む研修会でした。

制度的なこと、金銭的なこと、実際暮らしておられる環境や様子を具体的にお話いただいて、漠然と描いていた子どもの巣立ちが身近に感じられて、より焦燥感が募ってきました。息子の現状や本人の気持ちがわからないまま手離す不安など…、どちらかといえばネガティブな方向へ行きがちになってしまうのですが、日々の生活をさらりと笑いを交えて話してくださる講師の方のお話を聞くと、少しだけ心が軽くなったような気がします。「子どもの将来の明るい自立生活を～」という、同じ思いを持っている保護者の方々が傍に居ることもとても心強いです。準備することや学ぶことはまだまだあると思います。これからも一緒に悩み考えてもらえると嬉しいです。

まだまだ先と思いますが、あつという間にやってくるんでしょうね。意思がはっきり伝えられない子どもだけど、沢山の人との出会いや周りの関係性や色々な経験で気持ちを読み取れる人を増やしたいと思いました。時がくれば、親子のタイミングで一度体験する事から初めてみてもいいかなと思いました。また、兄弟にも負担がかかることを聞いて考えさせられました。男女一緒のグループホームにも驚きました。親は研修、子どもは楽しい音楽&クリスマスと、有意義な一日を過ごせました。



形にはまらない、グループホーム、ケアホームもあることが解りました。食事の時間や生活のしかたなど、今までは型にはめようとしていたのかも知れませんが。障害程度区分や介助時間のことなど、難しい問題も考えていかなければいけないけれど、その前に選択肢を沢山つくるのが大切だと思いました。

講師それぞれのお話がとても良かったです。グループホームとは…。当事者、支援者としての視点。今現在の様子。保護者の質問に対する回答。私は、「息子がまだ小学生だし」と思い(たい)、「まだまだ先のこと」と思い(たい)、何よりも、やっと体調も安定してきて在宅、学校での生活も軌道にのってきて、安心して「家で一緒に生活していくねん！」と大喜びしているところなのかもしれません。心のどこかに「どうかこの生活が続いていきますように」という不安を抱えていたからでしょう。頭ではわかっているけど、「自立についてなんて、まだまだ」が正直な気持ち。でも、そんな想いを柔らかくほぐして、将来について楽しく考えられるきっかけになるような話でした。「こうあらねばならない！」と思うと、しんどい時もあります。でも、講師のみなさんのお話は、『経験してみる』って大切なことよ」と気づかせてくれる感じ。子どもたちも親も支援者も、みんな「経験してみる」「経験していく」を積み重ねて、試行錯誤して、探して見つけていけばいいんだなあ…と思い、すごく気が楽になったし、楽しくなりました。まずは、たくさん経験していくことをあきらめたり、奪ったり、奪われたりしないでいきたいです。「失敗する経験」って、めっちゃめっちゃ大切なんや〜と思えたことも良かったです。肩に力を入れてばかりだと、視野がせまくなる。でも、「肩に力も入るわいな！」な現状もある。楽しくなったり、肩の力をぬいたりしながら、みんなで視野を広げていけたらいいな、そんな気持ちになった研修会でした。

障害児を育てる親にとって、親亡き後、この子が生きていくためのお金がどうなるのかは一番の心配事です。兄弟姉妹が面倒を見るというのは、親にとっては辛いことです。親の生活保護を隠していたお笑い芸人がテレビでバッシングされる度に「これが障害者の生活保護の申請に影響しなければいいのに」と心を痛めていました。今回、いろいろな現状を聞いたことが良かったです。グループホームはひとつの暮らし方としていいなあと思いました。他人と暮らすというのは大事ですね。結婚だって「他人と暮らす」から始まりますものね。今年度のほうふの「すまい」の企画で、人とつながり、豊かに暮らすありようがイメージできるようになりました。

今回、お話していただいたグループホームでの生活は、いずれは一人暮らしというのを目標に、その前段階としての共同生活というお話でした。私は息子の自立は、「みんなでワイワイと共同生活、終の棲家、そして、なるべく余裕をもって楽しく生活できる家を」と思っています。男女一緒のグループホーム、同じ階に男女の部屋がごちゃ混ぜに並び…という話を聞き、心の中で「えっ!?大丈夫なん？」と聞いていたら、私の心の声が聞こえたのか、講師の方が「恋愛になってもええやん」と言われ、目からウロコでした。とらわれていた「変な常識」がまたひとつとれた一日でした。



未来に向かってチャレンジ！ ～障害児の自立に向けて～

【大阪ガスグループ“小さな灯”運動「子ども支援市民活動助成プログラム」助成】

音楽で遊ぼう ～クリスマスイベント～

日 時：2012年12月24日（月・祝）13：30～15：30

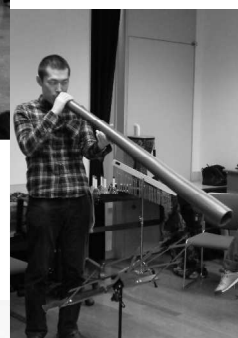
会 場：大阪市立城北市民学習センター 研修室1

参加者：子ども10名、ほうぷスタッフ2名、ヘルパー2名



昨年まで「音楽広場」の活動にかかわってくださっていた浅井あゆみさんと浅井倫子さん(姉妹でも親戚でもありません、あしからず)を講師にお迎えし、「音楽広場」に参加していた子どもたちを中心に、小学

生から成人した子ども(?)まで、幅広い年齢の子どもたちが、クリスマスソングを聞いたり、みんなで演奏したり、歌ったりと、音楽いっぱいの楽しいクリスマスになりました。講師のノリの良さに、子どもたちものせられて、特に珍しい楽器の演奏には興味津々でした。とても楽しいひとときを過ごすことができました。そんな中でも、年頃の女の子たちは、恥ずかしいのか控えめなリアクションでした。3年前の「ファッションショー」の時は、音楽に乗ってノリノリだったのに…と思うと、「成長したんだなあ」と、しみじみ思いました。音楽に合わせたクリスマスプレゼントの交換のときには、自分の用意したプレゼントの行方が気になったり、プレゼントを手元に溜めたり、すぐに開けようとしたり・・・(笑)。子どもたちのおかげで、スタッフも素敵な音楽の中でクリスマス気分を満喫しました！



☆こんなコトしてみました～☆

昨年11月下旬に臨時総会を開催し、新規事業について話し合いました。子どもに関わる仕事に就いている社員もいれば、かつて子どもに関わる仕事をしていて、いつかは子どものところに帰ってきたいという社員もいて、新規事業の方向性は「子どもに関わること」で意見が一致しました。そして、「‘ほうぶ’でやりたいこと」というテーマで互いの夢を語り合いました。個人将来計画のほうぶ版の一部をご紹介します。

「個人将来計画」や「自立生活プログラム」をウリにする放課後等デイサービス

子どもの思いを聴きたい

放課後等デイでは「やってみたいこと／提案者／賛同者」の表を壁に貼って、子どもの意見を尊重しながら活動する

子どものアドボケート

家に帰りたくない子の寄り道コース

中高生のぶち家出の宿泊先(一泊300円！)

出前授業
お勉強教えます！
ゆっくりペースの塾

家族の思いを聴きたい

難しい子・しんどいといわれる子・親の話を聴く場所

児童相談所に行く前に相談する場所

就学前の親子の広場
プレパパ・プレママの集い

食べることでつながりたい

おばんざいカフェ&バー
高齢者や妊婦さん、身体に優しい食事を楽しむ場所

まっすぐ家に帰りたくない時に立ち寄って一杯飲める場所

いろんな人とつながり、いろんな人がくつろいで、ワクワクするカフェヒーリングのプチイベント

分かち合いたい

私設文庫

絵本の読み聞かせ

手話教室

これやって～！あれならお手伝いしたいです～！という、皆さんの声をお寄せ下さい♪

あさひ あったか まちづくり計画

第18回 和んで座談会

～ おもちつき大会 ～



日時：2013年1月19日（土）13：00～15：00
会場：旭区在宅サービスセンター（あさひあったかセンター）
参加者：約60名、スタッフ 約25名
主催：あさひあったかまちづくり計画をすすめよう会

「あさひあったかまちづくり計画」の一つ、地域の障害をもつ方々と一緒にいろいろ楽しいことをしながらつながりをつくっていきこうと始めた「和んで座談会」も第18回となりました。第17回は、区内の障害児施設で夏まつりを開催し、出店を楽しんだり、うちわを作ったり、老人クラブの方に「ドンパン節」を習ったりしました。今回は、昨年大好評だったおもちつき大会。前日は雪がちらつく寒さでしたが、当日は寒さも少し和らいで、老若男女80名以上が集まりました。山本副区長も来てくださいました、あさひあったかセンターの玄関は、威勢のよいペタンペタンの音で活気づきました。小さな子どもが保護者と一緒につくと周りは温かな雰囲気になりました。つきたてのおもちは、やっぱり美味しい！ 休憩時には、マジックショーもあり盛り上がりました。継続は力なり。出会いとつながりの場として定着しています。

昨年は訃報が続いた一年でした。娘の知り合いも亡くなられた方があり、二回、告別式に娘を連れて行きました。知的な障害をもつ娘が、旅立たれた方のお顔に向かい、「ありがとう」と言って頭を下げました。わかっているのかな～。本当に「ありがとう」だよね…と、涙があふれました。よく頑張られましたね。ありがとうございます。ゆっくりと休んでくださいね。

新しい年を迎え、逝った人達の意志を継いでいくことを心に誓い、想いをこめて、一歩、踏み出します。

